

令和6年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 宮古島市社会福祉協議会	代表者	野原 勝	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉協議会が運営する事業所で、住宅地から離れており自然豊かな環境でのんびり過ごせる事業所です。利用者の平均介護度は2.1と中軽度の方が多く、半数以上を認知症の方が占めており、認知症ケアを主に、「本人らしさと笑顔を大切に感謝の気持ちを持ってケアします。住みなれた地域とのつながりを大切にし安心できる環境作りに努めます」を理念に掲げて、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	宮古島市社協小規模多機能型居宅介護事業所たかやま	管理者	赤嶺 鉄		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	1人	1人	2人	2人	12人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○スタッフのスキルアップの為、職員の個別評価・面談の実施、資格取得や事業所内・外の研修参加を目指す。 ○次年度も職員全員で外部評価に取り組み、より良い事業所を目指す。	○令和6年度は家族会を開催できた。ただ、職員の参加、ご家族の参加率が極端な偏りがあった。 ○イベントに関しては、家族会、夏まつり、敬老会と地域の方や子供達を呼び開催できた。感染症に関しても、イベントを開催するにあたって注意喚起をしながら室内開催のイベントに関しては来所時に検温したりして対策をしていた。その後、集団感染は確認されなかった。	○夏まつりに関して、去年よりも理事等も参加していたので、良かったと思う。 ○事業所で何があったか、何をしているのか、この会議等で教えてもらって分かることが多い。 ○改善しようとしている努力は分かった。 ○一部説明がないと改善や取り組み内容が分からない部分があった。	○民生委員や自治会を招いて出来る範囲で行事を行っていき実際に事業所でどのような事が行われているのか理解してもらおうようにしていく。 ○継続して行ける関係性をさらに、良く出来るように努めている。 ○毎回の開催時に改善状況や取り組みを話して常に状況を理解してもらえるように話をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	○今後は自分たちが出来る範囲で環境整備をしていく。また、定期的に推進委員の皆さんと協力して、草刈り作業を出来るように計画していく。 ○カーブミラーについてはどこが設置するか確認し引き続き要請していく。 ○野外のライトはソーラーのものを検討していく。	○環境整備に関しては、天気や機械の故障などもあり計画が立てられなかった。 ○野外のソーラーは簡易的なソーラーを考えては居るが絞り切れていない。	○日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていませんか？という問いが理解しにくい文書になっているので、もっと理解しやすく文書を変えてほしい。 ○草刈り作業に関しては、あまり大きな範囲ではなくて出来る範囲で行った方がよいのではないかと。また、市役所に継続して環境整備をお願いしていった方がよい。	○次年度は外部評価の質問等に関して改善してより良く理解ができるように作成する。 ○草刈り作業に関しては、引き続き市役所をお願いしていく。また、出来る範囲で自分たちも環境整備に努めて安心、安全な環境を整えていく。 ○市役所に継続して環境整備をお願いしていく。

C. 事業所と地域のかかわり	○次年度は民生委員の会議に参加し交流を深め、色々な行事等に参加してもらえるように働きかけをしていく。また地域の会合や交流会などにも参加してアピールしていく。	○地域の会合や交流会には参加できていないが、たかやま夏まつりや敬老会で交流を図ってきた。	○広い範囲で地域の交流会など、いきなりいっても接点もないので難しいと思う。あと、1回は民生委員の定例会に参加して事業所の紹介をしていたので、どうにか繋がろうと努力はしていると感じた。 ○まずは、事業所の近隣地域からつながりを持った方が良い。 ○民生委員の行事に上野地区の高齢者ピクニックに協力参加すると聞いているので地域とのかかわりに努めていると感じている。	○事前に、情報収集しまずは近隣地域の行事、イベント等に参加していく。 ○民生委員の方たちと一緒に地域に係っていけるように準備して地域とのつながりに努めていく。 ○地域づくり協議会等に情報収集しながら、イベント参加出来るように調整していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	○自治会や民生委員の会議に参加出来ていないので次年度は、参加できるように情報収集していく。 ○次年度は積極的に民生委員や自治会の皆さんへイベントの参加を呼びかけていき交流を図る。	○一度定例会には参加したが事業所紹介程度で終わっている。 ○たかやま夏まつりに地域の皆様が太勢来て頂いた。	○利用者本人が住んでいる地域の方との会議とはケース会議の事？担当者会議？昔一度地域の方を交えた会議があったが今はないのか。 近いパターンでA コープの移動販売車を利用している方はいるがまた、配食等も利用しているが、その方達を呼ぶのは今の時代時間の調整は難しいのではないかと。 ○利用者を市主催の敬老会に連れていき参加してもらった事は以前の会議で報告があり知っている。 ○利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますか？に関して、今は家族が自分達だけで色々動いて手続きなどをして施設に入ったりしているらしい。そこで事業所のかかわりはどんな感じなのか。	○今後は今参加協力できることに力を入れて参加し、その中から次につながる関係性を築けるように努めていく。 ○今後も事業所の利用者以外で相談や困りごとがあれば話を聞き丁寧に対応していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	○運営推進会議の内容は工夫して、もっと地域の心配な方の意見をもらう時間を作るようにしていく。 ○運営推進委員の来所する機会を作り、事業所の様子や取り組みを知る機会を増やす。	○運営推進会議の内容は工夫して、もっと地域の心配な方の意見をもらう時間を作るようにしていく。 ○運営推進委員の来所する機会を作り、事業所の様子や取り組みを知る機会を増やす。	○来所する機会を作っていない。 ○運営推進会議で出た意見を改善できるようにつなげていこうとしているのは感じる。	○次年度は推進委員の皆さんと色々な行事や訓練等を行い、少しでも事業所への来所機会を作っていき、普段たかやまでの過ごししかた、スタッフと利用者のかかわり方を感じてもらえるようにしていく。 ○運営推進会議の内容に関して推進委員の皆さんと一緒に考え意見をもらいながら工夫に努めていく。
F. 事業所の防災・災害対策	○来年度も宮古島市との協定を継続し災害時に連携をとれるようにする。 ○社協たかやまが福祉避難所としての役割を地域の方へ周知を継続し、BCPを完成させて職員ともBCPの勉強、見直しをしていく。	○来所度も宮古島市との協定を継続し避難時に連携をとれるようにする。 ○社協たかやまが福祉避難所としての役割を地域の方へ周知を継続し、BCPを完成させて職員ともBCPの勉強、見直しをしていく。	○防災計画はあるのか。また、その中で役割分担はされているのか。 ○耐震問題もたしかに心配。本当に今地震が起きた特に建物が持つか分からない。 ○以外に木造はしなる。 ○避難訓練時は名前呼びかけをしているのですか？有事の際は名前だと同じ苗字が多いのでパニックになったとの事例があるので、番号で呼んだほうがスムーズに避難誘導が出来たりする。また、事前に役割分担をしっかり決めておくことが大事。 ○推進委員がどのような役割をしたらいいのか。	○推進委員の皆さんも合同で避難訓練が出来る機会を作り、実際の訓練を体験してもらう。 ○耐震問題等もあるので、市役所と協議し福祉避難所として機能できるように調整していく。 ○避難訓練に関しては、今回の意見を考慮しながら、訓練を行っていく。 ○避難訓練開催前に推進委員の皆様にも計画書を見てもらい役割を決めて参加してもらえるように計画していく。